

「自閉」を「自開」しようとする姿

中村 卓樹 看護師 修士課程1年 熱海キャンパス

初めまして。熱海キャンパスで聴講させて頂きました中村卓樹（たかきと読みます）です。

私は今まで自閉症という言葉を目にしたことはありましたが、実際に見たこと、接したことはありませんでした。

その名の通り、どこか閉鎖されたイメージを持っていました。東田直樹さんのことを知り、こんなにも前向きに取り組む方がいるのかと驚かされました。

お話の中で、“記憶が点の集まりだ”と聞いた時、自分をそんな言葉で見事に表現できるなんてすごい、そう感じずにはいられませんでした。なんて感性豊かなのだろうと。

自閉症の息子を持つアイルランドの著名な作家が、偶然にも日本で英語の先生として働いていた。このことは、東田さん、そして世界中の人々にとっての何かの縁だったと思わずにはいられません。

母の手作りの文字盤を打ち終わった後、“おわり！”と言う姿に思わず笑ってしまいました。なぜか温かな笑顔でいる自分がいたことに気づきました。

東田さんのまさに「自閉」を「自開」しようとする姿は、新しいことに挑戦するメッセージが込められていると感じ、私も見習わなければいけないと思いました。

また、障害のある人をかわいそうと思うそのこと自体がかわいそうなのだ気付きました。

世間の目や常識って何だろうと、改めて考えることができた授業でした。

乱筆、まとまりのない文章、どうかお許し下さい。東田さん、ゆきさん、本当にありがとうございました。